



ゆうゆうあん 「悠遊庵さんぽみち」

土浦市では、平成12年度から市内の中学校区に一カ所ずつ、土浦市生きがい対応型デイサービス事業補助施設を設けています。対象は介護保険の認定を受けていない60歳以上の方で、いずれも地域住民が立ち上げ、現在市内6カ所で運営されています。「悠遊庵さんぽみち」はその一つで、田之室光子さんらが中心となって平成15年にオープンさせました。20年間民生委員を務めている代表の田之室さんは、「元気な高齢者を対象にはしていますが、これまでの経験も生かせると思い立ち上げました」と話しています。

空き家を借り、改装してスタート



代表の田之室光子さん(中央)、副代表の天谷義秋さん(左)、スタッフの永田敦子さん(右)。

開設場所は、個人の空き家か空き店舗を使うという市の要請でした。自宅の近くに、4～5年の間空き家になっている家があり、持ち主に相談したところ協力していただけることになりました。約50坪の平家を高齢者が利用しやすいように改装し、スタッフ5人体制で始動しました。「民生委員の私に相談に来る方も、自宅よりこちらの方が来やすいようです。また、利用者の状況で介護保険認定のアドバイスをすることもあり、民生委員としての経験が役立ち、利用者に喜ばれています」と田之室さん。

生きがいづくりの講座も充実



最初は散歩の途中で寄れる場所として、お茶飲みをしながらおしゃべりする場として始まりましたが、1日中それだけでは退屈だということで、ボランティアで講師を募り講座を開設。6年目と

ら土曜日まで毎日、絵手紙・手芸・囲碁・カラオケ教室などの講座で埋っています。利用者の皆さんが特技を生かして、時に



手芸講座でスラッシュキルト、刺し子などを楽しむ皆さん。

は講師になり、時には生徒になっているのがこの良さだと言います。無料の利用登録をするだけで、1日100円(講座の材料費は別)で利用でき、登録者数は697人、年間延べ7,000人が利用しています。夫の介護をしている方が、夫がデイサービスに行っている間に介護疲れを癒すために利用するケースも増えているそうです。

これからも利用者の声に応える運営を

取材当日の講座は、手芸と介護予防のヘルス体操、健康マージャンでした。参加されていた方は、「同じ趣味の人と話しができて楽しいですよ」「オープンしてすぐに来始めました。ここに来るのが生きがいになっています」と話していました。「ここで楽しみながら、人との関わりを広がっていった欲しい」というのが田之室さんの思いです。今後も講座の内容と共に、利用者が楽しみにしているバス旅行やお食事会などのイベントを充実させ、皆がフォローしあえるようなミニ家族版の施設をずっと維持していきたいということでした。



介護予防効果のあるヘルス体操は、指導資格をもつボランティアの講師が教えます。

いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki

発行者／社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918

電話 029(241)1133(代)

FAX 029(241)1434

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



携帯電話で読み取るだけで簡単に「ふくしネットワークいばらき」にアクセスできます。



環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています。